「変わるものと変わらないもの」

米倉　茂治　（英語科教諭　1956～1997）

3 月の初め、入学試験が行なわれ 504 名の志願者の中から 107 名が選抜されて入学式を迎えることになった。しかし式場がないので 4 月 7 日の入学式は幟町の平和記念聖堂とその隣りのエリザベト音大のザビエルホールを借りて行われることになった。

当日は、まず記念聖堂で荘厳なミサがあげられ、そのあとザビエルホールに移動して種々の説明や連絡があり、続いてクラス単位で記念写真を撮影した。そしてその翌日からいよいよ学院の日常生活が始まったのである。

創設期の広島学院



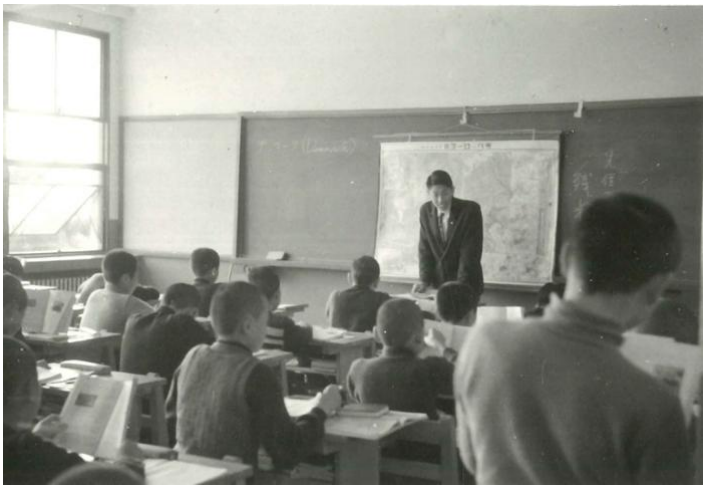


第 1 回入試昼休み風景（1956 年）

例えば、始業のベルですぐ遊びをやめてその場に直立、ベルが鳴り終わると駆け足で集合、隊列を組んで沈黙のうち教室に入る。机に座ると瞑黙して教師の入室を待った。授業の終りにも瞑黙する。つまり、事に取り組む時の切り換えと集中が大切にされた。

広島学院には二つの先輩校がある。昭和 13 年創立の六甲学院と 22 年創立の栄光学園である。広島学院の創立は昭和 31 年であるから、奇しくも 9 年間隔で創立されている。

学院の日常生活の型や規範は学院独自のものではなく、先輩校に倣って受け継いできたものである。つまりそれは 16 世紀から長年にわたって青少年教育に携わってきたイエズス会の具体的な実践方法だったのだと思われる。



授業風景（1956 年）

広島学院の半世紀　広島学院創立 50 周年記念誌』より
写真　広島学院校史資料室保管